（一）　A　第一万五千四百四十六號　臺灣日日新報　昭和十七年五月七日（木曜日）　（第二版）　（明治一年五月九日第三種郵便物認可）

夕刊

臺灣新報

五月六日

緬甸、印度國境附近の アキャブ飛行場占領

ビルマ方面我陸軍部隊 カルカッタも今や 我陸鷲の鵬翼下に

【東京發同盟至急報】大本營發表（五月六日午前十時十分）ビルマ帝國陸軍部隊は五月四日緬印國境附近のアキャブ飛行場を占領せり

ビルマ第五の都アキャブ

【東京發同盟】四日最後の手に歸したアキャブはビルマ西方ニューコラデン、レミニーの三河合流地點に位置しビルマ第五位、アラカン地方における最も重要な都市の一である。人口は約四萬、米穀が主でビルマ第一期による米統制令を實施

【ベルリン五日發同盟】來るべき夏季攻勢の發起により今次大戰の決勝が決定されるといふ事大な意味に於て五月は實に重大な月である

對ソ攻撃愈よ切迫か 獨軍萬全の準備成る

【ベルリン五日發同盟】獨ソ兩軍は現在に於ても極めて緊張なものがある今の所中立諸國の注目の的はドイツが何時との點を以て對ソ攻撃に出るかといふ點にあるがスエーデン筋の觀測によるとスエーデンはヒトラー、ムッソリニ兩巨頭會談を控えつゝ獨ソ戰に關する重要な情勢は殆ど總てが明瞭となつたと言ふ

即ち獨ソ戰は獨軍の勝利に歸し獨軍は既に全ロシアの三分の二を占領し殘る三分の一に對しても勝利の見透しがついてゐるといふ、即ち獨ソ戰は既に終局の段階に入つたと言ふのである、スエーデン筋によれば獨軍は既に全ロシアの三分の二を占領し殘る三分の一に對しても勝利の見透しがついてゐるといふ、即ち獨ソ戰は既に終局の段階に入つたと言ふのである、スエーデン筋によれば獨軍は既に全ロシアの三分の二を占領し殘る三分の一に對しても勝利の見透しがついてゐるといふ、即ち獨ソ戰は既に終局の段階に入つたと言ふのである

昆明、保山を大空襲 コレヒドール猛砲爆撃

【上海六日發同盟】昨朝來雲南日本軍部隊に編成して三日早朝から作戰に參加した雲南省西部の保山（永昌）を空襲した

【ワシントン五日發同盟】ワシントン米軍當局は五日コレヒドール島要塞に對する日本軍の砲撃は過去數週間に於ける最も猛烈なものであつたと發表した

航空技術協會發會式

【東京發同盟】東條陸軍大臣、嶋田海軍大臣、平賀東大總長、田中逸平鐵道大臣、小泉逓信大臣、寺内陸軍次官、岡部海軍次官の各官廳、學界、財界、官界の關係者多數參列の上、航空技術協會發會式は五日午後一時から九段偕行社に於て擧行された

推薦議員精進望む

阿部翼協會長の挨拶

【東京發同盟】翼賛政治體制協議會では五日の翼賛議會の總括會議

大政翼賛會總裁宮下の翼賛議會に關する本會議並に委員會議の經過報告に引續き、翼賛政治體制協議會の名を改め、翼賛政治會と改稱、わが國政治上に翼賛政治會の名を永く存續せしめることの出來たことに感に堪へない、殊へて本會議に於ては、翼賛政治會の名稱變更に關する決議を行ふに當り、同問題に關しては、各方面に於て種々の意見があつたが、本會議に於ては、この點に關しては、全然觸れられなかつたことは、この點に關する限り、本會議は

皇后陛下還啓
日赤通常總會へ行啓
令旨及び奉答文

【光榮同時】皇后陛下には午前十時半赤十字社本社に入御、徳川副総裁より同社本部有功章一等授章に関する御沙汰書を賜はり、次いで社長

臺灣新生報
昭和二十年（一九四五）五月十一日（木曜日）
第一万五千百四十六號

各界、政府に全的協力を結集
擧國新政治力を脫却、急速確立

七日第一回會合

五月の大詔奉戴日 實踐二項目決定

當選者は渾然一體
國策推進努力祈る
解散の日阿部會長放送

大編隊モレスビー爆撃
二月以來四十回に上る

麗水、玉山等を猛爆
中支殘存敵空軍蠢動據點を覆滅

北中支著しく發展
及川興亞院總務長官心得視察談

佛領マダガスカルに英軍不法の上陸
佛軍司令官降伏拒絶

斷乎たる・ヘタン士席
老獪英の常套手段
頽勢挽回に道を擇ばず

海賊英軍を飽迄反撃
佛總司令官將士を督勵

米政府、徹底的管理令
鐵、鋼材の民需使用禁止

にくそんぜ
頓服で効く
藥息喘ろひ
本舖 柴崎製藥所
全國藥店にて販賣ス

五月號 グン
特別記事 軍神の家々
ハワイ空襲に參加した一兵曹の手記
お求めは今！
書店にあり（五十錢）

中央公論社新刊
東京丸ビル五階 振替東京四三

五月號 日本公論
大東亞戰爭
民族指導の問題
ジャワ攻略戰記
バリックパパン通信
發火点上の印度
練成と教育
文化人と新選擧
小說 風炎・里見弴
根なし草・正宗白鳥

社説

熱帯科學研究所と南方資源
——東大科學陣の進展を期待

一

臺北帝大理農學部には、ここ數年來設置されてゐた熱帶科學研究所の設置が實現し、昭和十七年度において其の實用機關が附置せられて、今はただ其の建物の竣工を待つのみとなつてゐる。この熱帶科學研究所は理農兩學部の科學力を實際に應用して、南方圏の資源の科學的調査研究を行ひ、その結果を實地に利用し、南方の開發に資するを目的とするものであつて、大東亞建設の大理想實現のために、南方の總合的學術研究ならびに實際的研究を行ふことを使命とするものである。

南方の資源は、古くから世界の人々の關心の的であつて、特に今次の大東亞戰爭の勃發以來、その重要性は愈々加重し

上陸後僅か四時間
一兵も損せず占領

油の島 マクタン攻略戰記

【臺北本部發表】比島ナポンにて何上陸軍部隊指揮官は、四月○日我軍を乘せた○○船はセブ島内○マクタン島へ向つて進んでゐる、同島は油の出る島として我軍上陸作戰上重要な島である、○○船は同島第一の町ナポンの港へ着いた、敵は既に島を捨てゝ逃げ去つてゐるので我軍は何等の抵抗も受けずに上陸した、ナポンの町は○○の家が○○軒ばかりの小さな町である、町の人口は○○○人位である、上陸した我軍は直ちに○○を占領し、○○○

遅い姿に感激

和平地區の抗戦の愚を悟り投降す

重慶軍〝吳大尉〟は語る

【臺中電話】此の記事は、昨年十月、臺中州下に於ける和平地區の抗戦の愚を悟り投降した重慶軍〝吳大尉〟が、その後の和平地區の模様、並に日本軍の仁慈ある取扱ぶりを語つたもので、吳大尉は和平地區の模範農場の一つである臺中州下大肚庄の農場に入り、農業に從事してゐるが、吳大尉の話によると、和平地區の模範農場は、昨年十月十五日より十七日迄の三日間、臺中州下大肚庄の模範農場に於て、和平地區の模範農場の第一回收穫祭が擧行され、和平地區の模範農場の代表者が多數參加したが、吳大尉も和平地區の模範農場の代表者として參加したのである、吳大尉は和平地區の模範農場の第一回收穫祭に參加した感想を次の如く語つた

香港陷落からの臺灣攻略が開始され、臺灣の總督や臺灣軍の將兵が和平地區に於ても抗戦軍に對して仁慈寛大の態度を取つてゐるのを知り日本軍の仁慈寛大なる態度に感激してゐる

私は昭和十七年一月、重慶軍の將校として、廣東省の前線に於て日本軍と對戰中、日本軍の捕虜となつたのであるが、日本軍の取扱ぶりは實に仁慈寛大であつて、私は日本軍の仁慈寛大なる態度に感激し、日本軍の仁慈寛大なる態度を知らせたいと思つてゐた矢先、和平地區の模範農場の第一回收穫祭が擧行されるので、私は和平地區の模範農場の代表者として參加することになつたのである、私は和平地區の模範農場の第一回收穫祭に參加して、和平地區の模範農場の代表者が日本軍の仁慈寛大なる態度に感激してゐるのを知り